

- 問1 鎌倉時代末期、生活が困窮した武士などが幕府や荘園領主の支配に従わなくなり、武装して年貢を奪うなどの抵抗活動を行うようになりました。このような、既存の支配体制を乱した集団を当時の領主側は何と呼びましたか。 (2018年 茨城県公立入試 類似)
1. 御家人 2. 悪党 3. 公領 4. 蝦夷
- 問2 鎌倉時代において、ある御家人の持っていた広い所領が、数代後には複数の親族によって小さな区画に切り分けられた状態になっていました。この状況が御家人に与えた影響と、その背景について述べた説明として最も適切なものはどれですか。 (2017年 群馬県公立入試 類似)
1. 一族が各地に分散して領地を持つことで、幕府に対する反乱を計画しやすくなり、幕府の統治力が低下した。 2. 土地を細かく分けることで、それぞれの土地に最適な農作物を育てるようになり、御家人の収入は大幅に増加した。 3. 長男のみが全ての土地を継承する仕組みに変わったため、所領をもらえない他の兄弟が不満を抱き、一族内で争いが絶えなくなった。 4. 世代を重ねるごとに一人あたりの領地が小さくなり、軍役などの負担に耐えられず御家人が困窮する原因となった。
- 問3 鎌倉時代後期、元寇の負担や分割相続などにより生活が苦しくなった御家人を救済するため、幕府が借金を帳消しにし、手放した土地を無償で取り戻させるために出した法令は何か。 (2022年 青森県公立入試 類似)
1. 公事方御定書 2. 徳政令 (永仁の徳政令) 3. 武家諸法度 4. 御成敗式目
- 問4 鎌倉時代に成立した新しい仏教の一つで、開祖の一遍が全国を巡り、お札を配ったり「踊念仏」を行ったりすることで民衆の間に急速に広まった宗派を選びなさい。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
1. 浄土宗 2. 時宗 3. 日蓮宗 4. 浄土真宗
- 問5 鎌倉幕府において、将軍から御家人に対して行われる「御恩」の具体的な内容として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 滋賀県公立入試 類似)
1. 農民から年貢を取り立てる権利を、一定期間に限り貴族や寺社に譲渡すること 2. 戦時における軍役や、平時における京都や鎌倉の警護活動を義務づけること 3. 先祖から受け継いだ土地の所有権を保証したり、戦功に応じて新しい領地を与えたりすること 4. 朝廷から征夷大將軍に任命されることで、全国の武士を統制する権利を得ること
- 問6 鎌倉幕府の三代執権である北条泰時が、守護や地頭の職務を明確にし、公正な裁判を行うための基準として1232年に制定した、日本最初の武家法律を何といいますか。 (2023年 奈良県公立入試 類似)
1. 武家諸法度 2. 公事方御定書 3. 御成敗式目 4. 禁中並公家諸法度
- 問7 鎌倉時代の市場の様子を描いた絵巻物には、武士や商人、庶民が入り乱れる喧騒の中で、人物が太鼓をたたきながら踊り、熱狂的に念仏を広めている場面が見られます。この背景にある、当時の宗教活動の様子を説明したものととして適切なものを選びなさい。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
1. 法然は、知恩院を拠点として修行に励むことを重視し、特定の場所でのみ念仏を唱えることを許した。 2. 行基は、奈良時代の市場の整備とともに、橋の建設や布教を同時に行うことで、民衆からの支持を集めた。 3. 日蓮は、蒙古襲来の危機に際して、幕府の要人が集まる儀式の場でのみ自身の教えを説き続けた。 4. 一遍は、市場のような多くの人々が集まる場所を活動の拠点とし、踊りを取り入れた念仏によって時宗を広めた。
- 問8 鎌倉幕府が「徳政令」を出さざるを得なくなった背景として、当時の社会状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
1. 朝廷が幕府に対抗して新しい法律を作ったため、御家人の忠誠心が揺らいでいたため。 2. 大規模な干ばつによって農業生産が激減し、幕府が農民の税を免除したため。 3. 幕府が貨幣経済を禁止しようとして、すべての支払いをコメで行うよう強制したため。 4. 防衛戦であった元寇では、奪った土地を恩賞として分配することができず、御家人の不満が高まっていたため。
- 問9 鎌倉時代を代表する彫刻作品のうち、東大寺南大門に安置され、筋骨隆々とした逞しい肉体と憤怒の表情、そして躍動感あふれるポーズが特徴的な一対の像の名称として正しいものはどれか。 (2026年 茨城県公立入試 類似)
1. 鎌倉大仏 2. 金剛力士像 3. 弥勒菩薩像 4. 阿修羅像
- 問10 13世紀に大帝国であった元を訪れたベネチア出身の商人が、日本を「黄金の国ジパング」としてヨーロッパに初めて紹介した旅行記の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。 (2022年 三重県公立入試 類似)
1. 西遊記 2. 東方見聞録 3. 世界の記述 4. 海国図志
- 問11 1232年、鎌倉幕府の3代執権である北条泰時が、武士社会の慣習をもとにして定めた、武士のための最初の体系的な法典を何といいますか。 (2023年 山梨県公立入試 類似)
1. 建武式目 2. 公事方御定書 3. 武家諸法度 4. 御成敗式目 (貞永式目)
- 問12 鎌倉幕府が地方支配の基盤として設置した「地頭」について、その設置場所と役割の組み合わせとして最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 広島県公立入試 類似)
1. 国ごとに置かれ、国内の武士を動員して軍事や裁判を統括した。 2. 各藩の領地ごとに置かれ、大名の参勤交代の事務を担当した。 3. 朝廷の各官署に置かれ、幕府との連絡調整や儀式の運営を行った。 4. 荘園や公領ごとに置かれ、現地の土地管理や年貢の徴収を行った。
- 問13 北条時宗が指揮を執った元寇の後、鎌倉幕府の支配体制を揺るがす大きな社会問題が発生しました。その背景として最も適切な説明を、次の中から選びなさい。 (2023年 大分県公立入試 類似)
1. 防衛を指揮した北条氏の権威が失墜したことで、朝廷が幕府の倒壊を狙って承久の乱を引き起こした。 2. 元寇の負担を軽減するため、北条時宗がすべての御家人の所領を没収し、幕府が直接管理する公地公民制を復活させた。 3. 元との貿易が拡大したことで国内に大量の銅銭が流入し、極端なインフレーションが発生して幕府の財政が破綻した。 4. 防衛戦争であったため、勝利しても獲得した土地がなく、戦った御家人に十分な恩賞を与えることができなかった。
- 問14 1221年に起こった承久の乱ののち、鎌倉幕府の支配力が西日本まで及ぶようになると、各地で地頭と荘園領主との間の紛争が急増しました。これに対し、3代執権の北条泰時が、御家人同士や地頭と領主の争いを公平に裁くための基準として1232年に制定した、武士独自の法を何といいますか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
1. 建武式目 2. 御成敗式目 (貞永式目) 3. 十七条の憲法 4. 公事方御定書

答え合わせ・解説

問1	答え 2 悪党	鎌倉時代後半、分割相続による領地の細分化や、元寇（モンゴル襲来）後の恩賞不足によって、多くの武士の生活が苦しくなりました。その中で、幕府や荘園領主の命令に従わず、実力で年貢を奪ったり武装して反抗したりする勢力が現れました。領主側は彼らを既存の秩序を破る「悪」の集団と見なしてこのように呼びました。
問2	答え 4 世代を重ねるごとに一人あたりの領地が小さくなり、軍役などの負担に耐えられず御家人が困窮する原因となった。	複数の子に所領を分ける仕組みでは、代を追うごとに個々の御家人が支配できる面積が減少します。それにもかかわらず、幕府への奉公や元寇の防衛費用などの負担は重くのしかかったため、自給自足が困難なほどに御家人が困窮し、質入れや売却によって土地を手放す者が相次ぎました。
問3	答え 2 徳政令（永仁の徳政令）	鎌倉時代後期、御家人は元寇の防衛費用や分割相続による所領の細分化で困窮していました。幕府はこれに対し、質入れや売却した土地を無償で取り戻させる徳政令（永仁の徳政令）を発布して救済を図りました。なお、御成敗式目は北条泰時が制定した裁判の基準、武家諸法度は江戸幕府が大名を統制するための法令です。
問4	答え 2 時宗	鎌倉時代後半に一遍によって開かれたのが時宗です。一遍は特定の寺院にとどまらず、日本各地を旅しながら教えを説く「遊行（ゆぎょう）」を行い、念仏を唱えながら踊る「踊念仏」という独特の形式で多くの民衆を惹きつけました。法然の浄土宗や親鸞の浄土真宗と同じく、阿弥陀如来の救いを説く浄土信仰の流れを汲んでいます。より実践的で分かりやすい普及活動が特徴です。
問5	答え 3 先祖から受け継いだ土地の所有権を保証したり、戦功に応じて新しい領地を与えたりすること	御恩の本質は「土地の保証」にあります。もともと持っていた土地の支配権を将軍が認める「本領安堵」と、手柄を立てた際に新しい土地の支配権を与える「新恩給与」の2つが主な柱でした。これにより、武士たちは自分の生活基盤である土地を守ることができ、将軍への忠誠を誓いました。
問6	答え 3 御成敗式目	北条氏が執権として政治の実権を握っていた時期、武士社会でそれまで慣習的に行われていた決まりを明文化したものです。これは武士のみに適用される法律であり、江戸時代に定められた大名向けの「武家諸法度」や、朝廷向けの「禁中並公家諸法度」、江戸中期の裁判基準である「公事方御定書」とは時代背景が異なります。
問7	答え 4 一遍は、市場のような多くの人々が集まる場所を活動の拠点とし、踊りを取り入れた念仏によって時宗を広めた。	一遍の活動は「一遍上人絵伝」などの史料に詳しく描かれています。当時の経済の中心地であった市場（市）は、多様な階層の人々が集まる場であり、そこで「踊り念仏」を披露することは、時宗が急速に全国へ広まる大きな要因となりました。選択肢に含まれる行基は奈良時代の人物であり、時代の混同に注意が必要です。
問8	答え 4 防衛戦であった元寇では、奪った土地を恩賞として分配することができず、御家人の不満が高まっていたため。	鎌倉幕府の基盤は、将軍が御家人に領地を保証・支給する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係にありました。元寇の際、御家人たちは暴風雨の助けもあって元軍を撃退しましたが、自衛のための戦争であったため、幕府は御家人に与えるための新たな領土を手に入れることができませんでした。このことが御家人の困窮と幕府への不信感を招き、徳政令という強制的な借金帳消し策をとる要因となりました。
問9	答え 2 金剛力士像	鎌倉時代には、武士の台頭を背景とした力強く写実的な文化が栄えました。東大寺南大門に設置された金剛力士像は、運慶や快慶らによってわずか69日間で制作されたと伝えられており、当時の武士の気風を象徴する、迫力ある造形美を示しています。
問10	答え 2 東方見聞録	イタリアの商人マルコ・ポーロが、元に滞在した際の見聞をまとめた書物です。この中で日本は直接訪れてはいないものの、宮殿や家の屋根が金でできている「黄金の国ジパング」として紹介されました。この記述は後の大航海時代の探検家たち、特にコロンブスに大きな影響を与え、アジアへの航路開拓を目指すきっかけの一つとなりました。
問11	答え 4 御成敗式目（貞永式目）	鎌倉時代、承久の乱の後に武士同士の領地争いが増加したことを受け、裁判を公平に行うための基準が必要となりました。北条泰時は、それまでの貴族の法律（律令）ではなく、武家社会で培われてきた慣習を整理してこの法を制定しました。
問12	答え 4 荘園や公領ごとに置かれ、現地の土地管理や年貢の徴収を行った。	地頭は、貴族や寺社が所有していた「荘園」や、公的な土地である「公領」ごとに配置されました。彼らの主な任務は、現地の土地を管理し、領主に代わって年貢を徴収することでした。この仕組みを通じて、幕府は全国の土地に直接的な影響力を及ぼすようになり、武家政権の経済的な基盤を確立しました。国ごとに置かれた軍事担当者は守護であり、藩は江戸時代の制度であるため混同しないよう注意が必要です。
問13	答え 4 防衛戦争であったため、勝利しても獲得した土地がなく、戦った御家人に十分な恩賞を与えることができなかった。	元寇は外国からの侵略を退けるための防衛戦争であったため、勝利しても新たに奪った土地がありませんでした。幕府は御家人に対し、彼らの軍功に見合うだけの「恩賞（土地）」を与えることができず、また多額の軍費を負担した御家人の生活は困窮しました。これが幕府に対する御家人の不満を高め、後の幕府衰退の大きな要因となりました。なお、承久の乱は元寇以前の1221年に起きた出来事です。
問14	答え 2 御成敗式目（貞永式目）	承久の乱に勝利した鎌倉幕府は、西日本の朝廷側の領地に地頭を任命するなど、その支配力を全国へと広げました。しかし、地頭の勢力拡大にともない、土地の境界や年貢の納入をめぐるトラブルが多発したため、北条泰時は武士の慣習や「道理」を基準とした公平な裁判を行うためにこの法を定めました。これは武士による最初の体系的な法律です。